

早生で極めて糖度の高い 赤ナシ新品種「玉水」

果樹部

1 背景、目的

本県のナシ主力品種は赤ナシの「幸水」です。本県産「幸水」の収穫最盛期は8月上中旬ですが、温暖化によって関東産「幸水」の出荷が前進化し、市場競合が激化しています。有利販売を行うためには、収穫期が早く、食味の優れる品種が必要です。

そこで、露地栽培で7月下旬から収穫できる糖度の高い早生赤ナシ新品種を育成しました。

2 成果の内容、特徴

- 1) 「玉水」は、早生ナシである種子親「あけみず」と花粉親「喜水」を交配し、早晩性および黒斑病感受性判別のDNAマーカーを用いて育成した赤ナシ新品種です（図1、2、一部データ略）。
- 2) 開花盛期は4月6日で、「幸水」より3日早いです（データ略）。収穫期は7月25日～8月5日で、ジベレリンペースト処理（熟期促進）をした「幸水」より早いです（図3）。
- 3) 糖度は「幸水」より2度程度高く、食味が優れます。「幸水」よりやや小ぶりですが、果実の形が良く、揃いも優れます。黒斑病抵抗性で、黒星病の罹病性は「幸水」並みです（図4、一部データ略）。

3 主要なデータ・画像など



図1 「玉水」の結実状況



図2 果実外観および断面

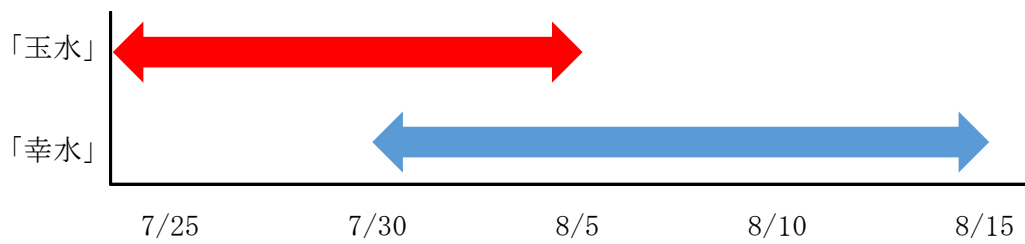


図3 「玉水」の収穫時期 (筑紫野市)

- 注) 1. 平成 28~30 年の 3 カ年の原木データの平均。
2. 「幸水」は満開 30~40 日後にジベレリンペーストを処理。

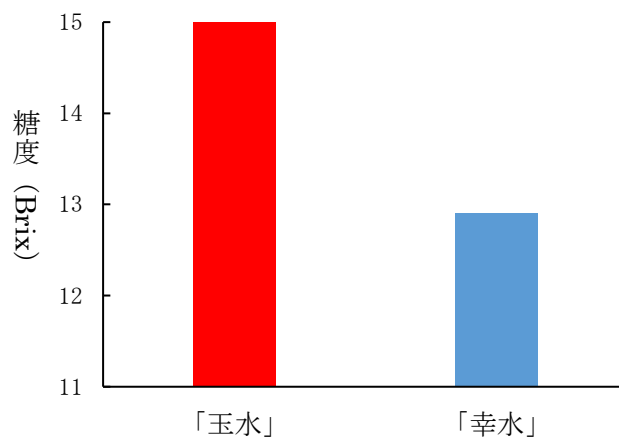


図4 「玉水」の糖度 (平成 28~30 年)

- 注) 1. 平成 28~30 年の 3 カ年の原木データの平均。
2. 「幸水」は満開 30~40 日後にジベレリンペーストを処理。